

学年別 教科に関する調査結果考察資料
小学校

調査実施日 令和4年4月14日（木）

小2 国語

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

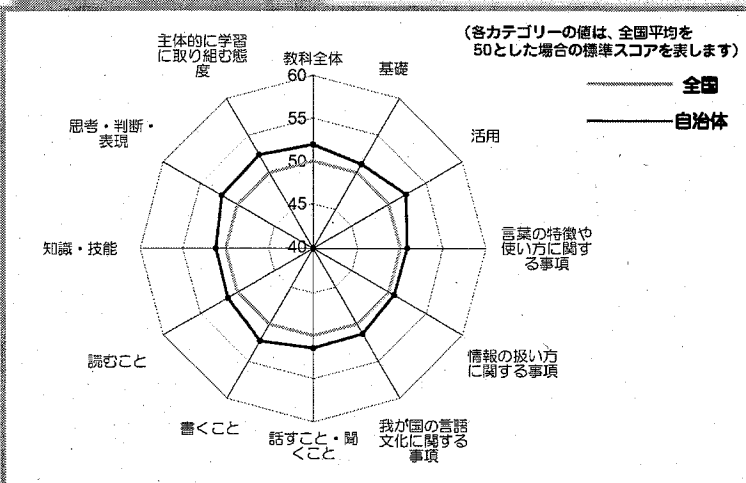
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		78.9	82.3	★
基礎		88.5	90.1	★
活用		61.0	67.6	★
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	91.0	92.3	★
	情報の扱い方に関する事項	64.9	68.3	★
	我が国の言語文化に関する事項	59.5	66.1	★
	話すこと・聞くこと	87.0	89.8	★
	書くこと	58.1	65.5	★
観点別	読むこと	78.4	81.6	★
	知識・技能	85.3	87.2	★
	思考・判断・表現	73.0	77.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	60.2	67.8	★

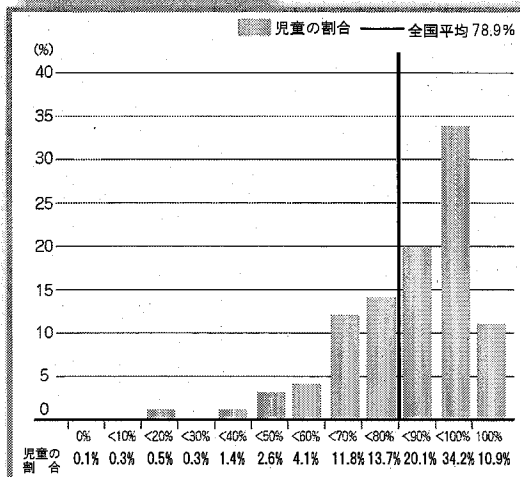
分析 コメント

- 小2国語は、教科全体の正答率が82.3%
- で、全国平均正答率を3.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が67.8%
- で、全国平均正答率を7.6ポイント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

かん字をよむ

大問2(1)②

<ねらい> 第1学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。

全国平均 93.7% 正答率 92.8% 差 ▲0.9 ㊦

指導のポイント 読み方を間違えやすい漢字については、授業の中で意識して取り上げ、音読を通して児童に読み方が定着しているかどうかを確認していきたい。児童が漢字に触れる機会を、できるだけ多く設定することが大切である。

ものがたりをよみとる

大問4(2)

<ねらい> 場面の様子など、内容の大体を捉えている。

全国平均 95.2% 正答率 95.7% 差 0.5 ㊦

指導のポイント 作品の中でどのような場面かを読み取る問題である。文章の内容を正確に読み取るには、特に低学年では、音読の指導が大切になる。文章を声に出して読むことにより、耳で聞いて内容をつかんだり、読み誤りに気付いたりすることができる。また、言葉を具体的にイメージさせるため、絵や写真と結び付けたり、動作化させたりして、言葉の力を獲得させることも必要である。

小2 算数

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

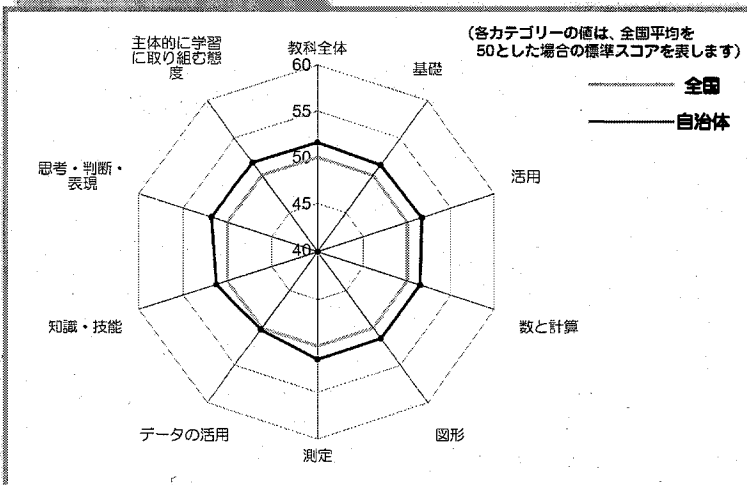
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		84.3	86.6	★
基礎		89.3	91.2	★
活用		64.7	69.0	★
領域別	数と計算	86.6	88.7	★
	図形	67.4	72.1	★
	測定	81.8	84.4	★
	データの活用	87.0	87.6	★
	知識・技能	88.9	90.7	★
観点別	思考・判断・表現	72.5	76.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	69.1	73.2	★

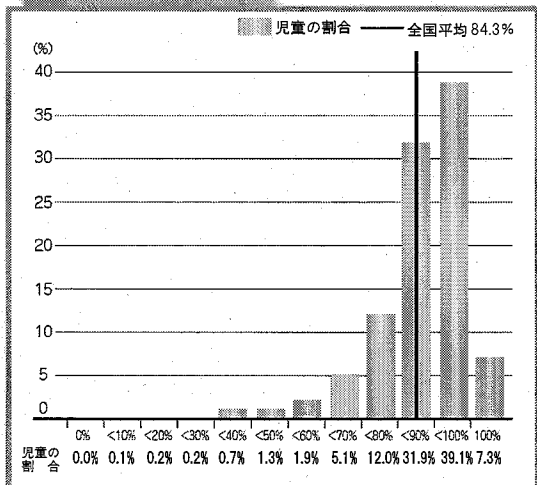
分析 コメント

- 小2算数は、教科全体の正答率が86.6%で、全国平均正答率を2.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が73.2%で、全国平均正答率を4.1ポイント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ながさ・かさ

大問10

<ねらい> 形の異なる容器の水の量を、コップ何杯分かで比較できる。

全国平均 93.6% 正答率 93.3% 差 ▲0.3 割

指導のポイント かさを比較する方法には直接比較、間接比較があり、さらにかさを数値化して比較する方法として任意単位による比較がある。直接比較や間接比較では、どちらが多く入るかわからないが、任意単位による比較では、どちらがどれだけ多く入るかが分かる。それぞれの方法のよさが分かるように指導することが大切である。

えをつかったグラフ

大問15(2)

<ねらい> 絵グラフから数を読み取ることができる。

全国平均 88.2% 正答率 88.3% 差 0.1 割

指導のポイント 本問の絵グラフで塗った各果物の数は、グラフの上の絵に描かれた各果物の数と1対1対応になっているので、色を塗った数と絵の果物の数は同じになることを理解させたい。正しく1対1対応させるためには、対象の果物に印を付け、印を付けたらその果物に対応した絵グラフの色を塗るなどのように、絵グラフを表す手順を丁寧に指導することが大切である。

小3 国語

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

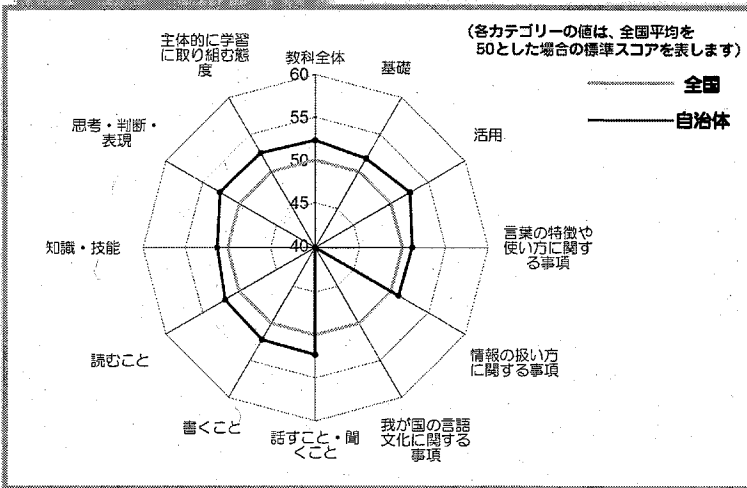
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		77.9	82.6	★
基礎		82.9	86.2	★
活用		67.7	75.3	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.8	84.7	★
	情報の扱い方に関する事項	88.1	91.7	★
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	87.3	92.2	★
	書くこと	66.4	74.7	★
観点別	読むこと	73.6	79.6	★
	知識・技能	83.3	85.4	★
	思考・判断・表現	74.0	80.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	67.8	76.9	★

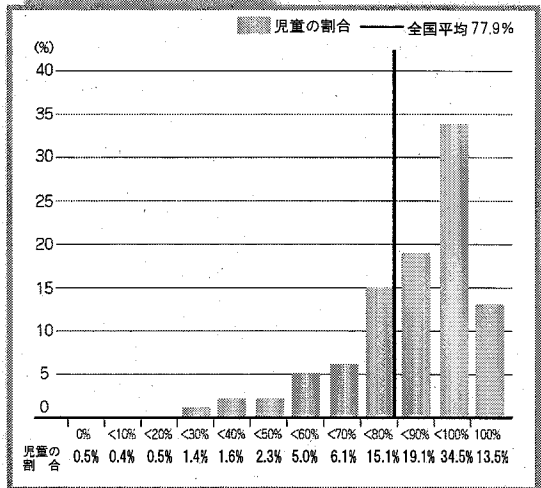
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が82.6%
- で、全国平均正答率を4.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が76.9%
- で、全国平均正答率を9.1ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



☆ 課題となる小問 ☆

かん字を書く

大問2(2)②

<ねらい> 第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 69.3% 正答率 68.5% 差 ▲0.8 ㊦

指導のポイント 中学年になると、学年配当漢字が急激に増える。まずは、低学年で学習した基礎的な漢字を確実に習得させることが大切であり、年間を通して指導する必要がある。また、この時期は、漢字を使うことに興味をもち、習得していくことに喜びを感じられる時期でもある。「きちんと書こう」という意識も強いので、「とめ、はね、はらい」などを習得させ、児童の学習意欲を大切に育てていきたい。

ことばの学しゅう

大問3(1)

<ねらい> 片仮名で書く語の種類を知り、正しく使っている。

全国平均 83.4% 正答率 85.7% 差 2.3 ㊦

指導のポイント 片仮名の指導に当たっては、教科書の中で片仮名が使われているところを探させ、どのような言葉で片仮名が使われているのかを理解させることが大切である。また、普段の生活の中でも片仮名を探させることで、片仮名を身近に感じさせることができる。なお、「シ」と「ツ」のように形の似ているものや、「ヤ」と「や」のように平仮名と間違えやすいものなどについては、丁寧な指導が望まれる。

小3 算数

「思考・判断・表現」が良好である

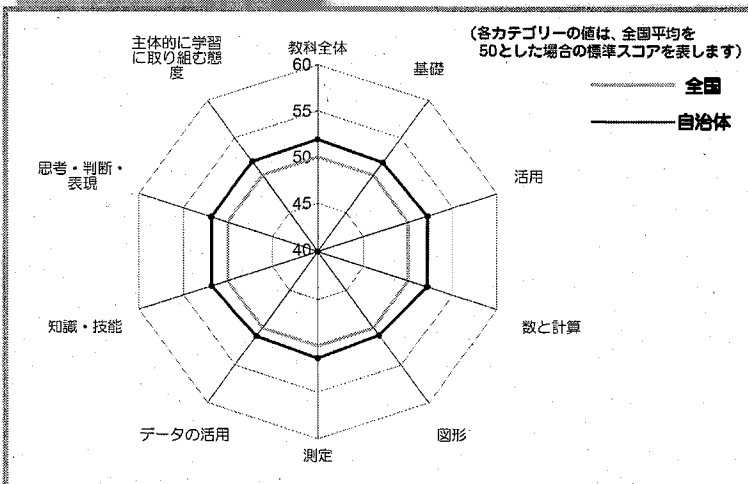
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		77.4	81.0	★
基礎		81.2	84.3	★
活用		63.4	69.1	★
領域別	数と計算	79.9	83.7	★
	図形	79.5	82.4	★
	測定	69.6	73.0	★
	データの活用	75.2	79.7	★
	知識・技能	79.7	83.0	★
観点別	思考・判断・表現	62.8	68.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	65.9	70.5	★

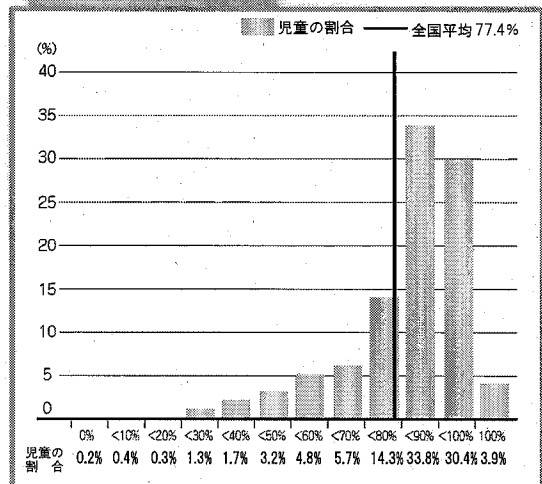
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が81.0%
- で、全国平均正答率を3.6ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.4%で、全国平均正答率を5.6ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

かけ算

大問4(8)

<ねらい> 7の段の九九ができる。

全国平均 94.6% 正答率 94.0% 差 ▲0.6 割

指導のポイント かけ算及びかけ算九九については、第2学年で学習する。かけ算の暗算の基礎となるのは、1から9までの数(基数)に同じ1から9までの数(基数)をかける81通りのかけ算であり、これを表にまとめたものが九九表と呼ばれる。指導に当たっては、できあがっている九九表を単に暗記させるのではなく、児童自身が九九を構成していくようにさせたい。具体的な場面と結び付けながら、どの段の九九についても十分習熟させることが大切である。

たし算・ひき算

大問4(3)

<ねらい> 何百+何百=1000の計算ができる。

全国平均 95.6% 正答率 96.0% 差 0.4 割

指導のポイント 何百+何百の加法は、100を単位として考えて、計算することができる。本問の場合は、100の単位10個分で1000の位に上がることを、丁寧に指導したい。数を相対的に見られるようにするためには、3けたの数を10や100を単位として見る見方を身に付けさせることが大切である。模擬貨幣などを使って指導すると生活と関連付けられ、理解しやすくなる。

小4 国語

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

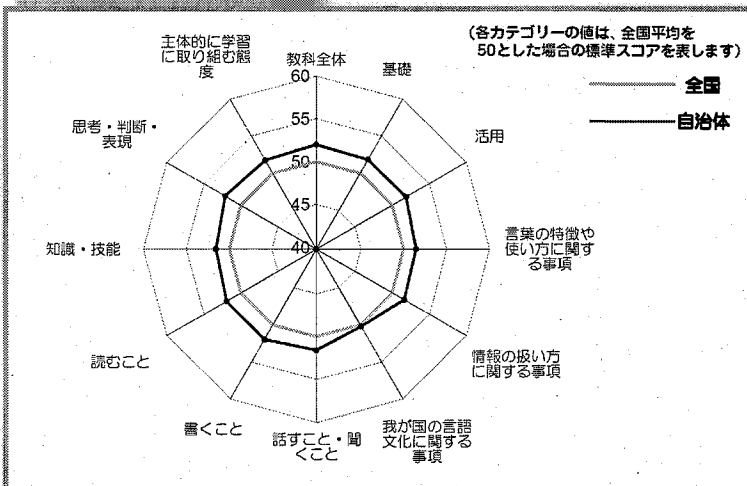
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		70.3	74.6	★
基礎		75.4	79.2	★
活用		58.7	64.2	★
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	73.5	76.8	★
	情報の扱い方に関する事項	61.5	66.9	★
	我が国の言語文化に関する事項	74.4	75.4	★
	話すこと・聞くこと	74.4	77.8	★
	書くこと	56.3	62.3	★
観点別	読むこと	73.0	78.5	★
	知識・技能	71.0	74.6	★
	思考・判断・表現	66.6	71.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	55.4	61.8	★

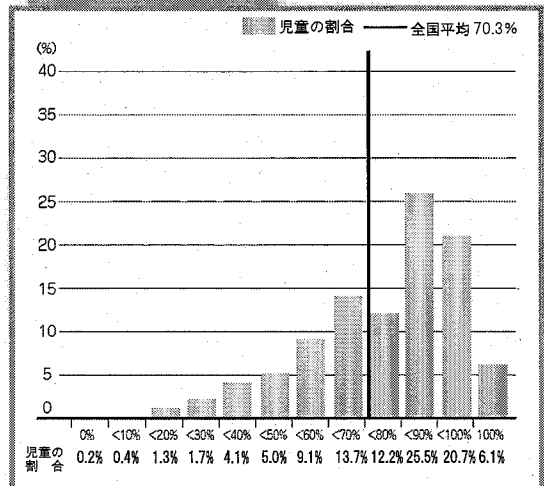
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が74.6%
- で、全国平均正答率を4.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が61.8%
- で、全国平均正答率を6.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 81.5% 正答率 78.3% 差 ▲3.2 ポイント

指導のポイント 漢字の書きの指導においては、新しい漢字を学習する際に、熟語作りや文作りの活動をできるだけ多く取り入れることが大切である。ゲーム形式で、身の回りのものを習った漢字を使って書かせるなど、漢字を日常的に使われる形にして習得させることが必要である。

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 漢字のへんやつくりを理解している。

全国平均 74.4% 正答率 75.4% 差 1.0 ポイント

指導のポイント 漢字のへんについて理解しているかを問う問題である。本問では、選択肢のへんを順に空欄三つに当てはめ確かめていけば、「にんべん」だけがすべての空欄に当てはまるのが分かる。ただし、へんについての知識だけでなく、問題に挙げられている漢字そのものについての知識を身に付けていることも重要である。漢字の理解は、言葉を使う力の重要な基礎に当たる。漢字の書き取りの練習だけでなく、さまざまな学習の仕方を工夫することにより、漢字が好きで、漢字について幅広い知識をもった児童を育成していきたい。

小4 算数

「思考・判断・表現」が良好である

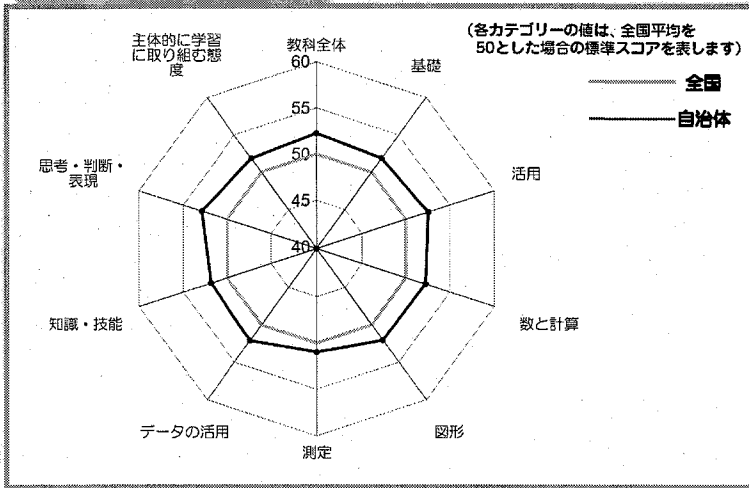
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		74.9	79.1	★
基礎		82.0	85.3	★
活用		55.7	62.4	★
領域別	数と計算	75.1	79.5	★
	図形	67.0	72.9	★
	測定	76.8	79.0	★
	データの活用	79.0	84.4	★
	知識・技能	78.8	82.1	★
観点別	思考・判断・表現	58.3	66.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	72.5	76.3	★

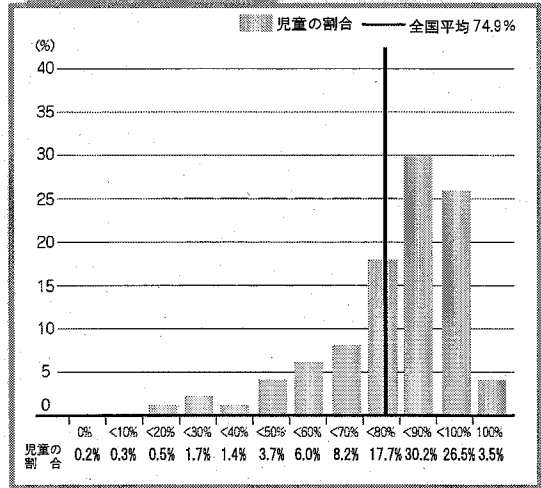
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が79.1%
- で、全国平均正答率を4.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が66.3%で、全国平均正答率を8.0ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

表とぼうグラフ

大問15(1)

<ねらい> 棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示すことができる。

全国平均 90.5% 正答率 91.1% 差 0.6 割

指導のポイント 棒グラフは、2つ以上の同種の数量を棒の長さで表して、その長短を比較することによって量の大小を判断するグラフである。棒グラフは、次のようなことに気を付けて読み取る必要がある。①表題を見て、何のグラフかを知る、②縦軸・横軸が何を表しているのか、単位、1目盛りの大きさをつかむ、③目的に応じて、個々の棒が表している数量の大きさを正しく読み取る、④最大値・最小値を押さえる、⑤棒の表す数量を比較する(差、割合)。本問のグラフで棒の表す数量を比較したとき、2番目に多い動物はパンダであることを理解させたい。

時こくと時間

大問8(3)

<ねらい> ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができる。

全国平均 83.9% 正答率 85.0% 差 1.1 割

指導のポイント 計算で時刻を求める問題では、時計を用いたり、テープ図を用いたりして、時間を量として見るのが大切である。1時間が60分であることから、計算によるつまずきの多いところである。55分は60分より5分少ないと考えれば、1時間前は4時10分、5分たして4時15分と考えることもできる。時間に対して豊かな感覚をもたせるのが大切である。

小4理科

「知識・技能」が良好である

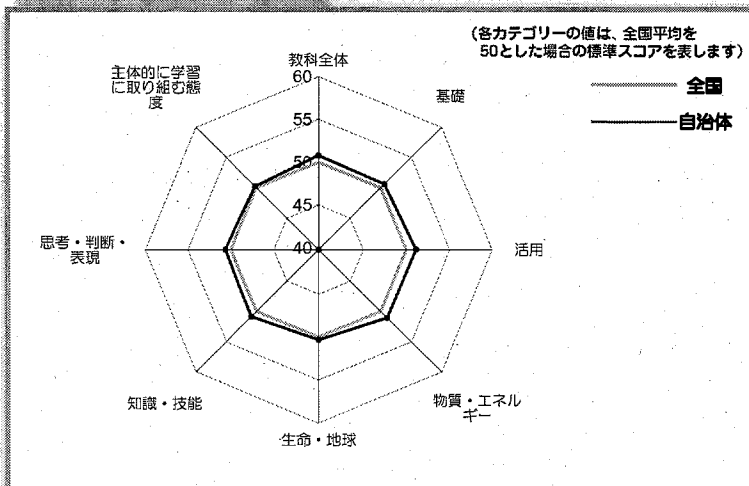
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		73.9	75.3	★
基礎		77.8	78.8	★
活用		55.6	58.5	★
領域別	物質・エネルギー	74.9	77.0	★
	生命・地球	72.6	73.2	★
観点別	知識・技能	75.1	76.7	★
	思考・判断・表現	72.9	74.1	★
	主体的に学習に取り組む態度	69.9	70.3	★

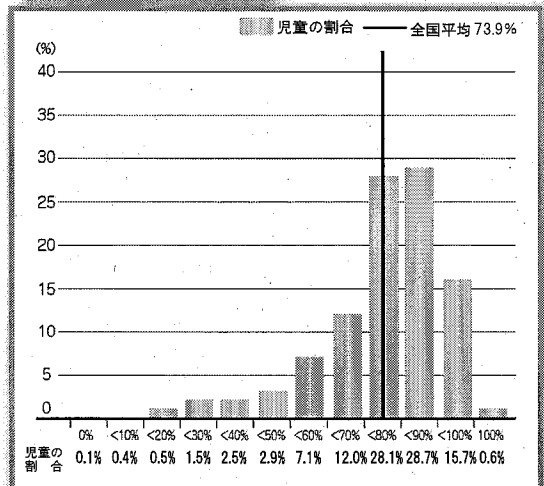
分析コメント

- 小4理科は、教科全体の正答率が75.3%
- で、全国平均正答率を1.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「知識・技能」が76.7%で、全国平均正答率を1.6ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

身近なしぜんのかんさつ

大問1(1)

<ねらい> 虫眼鏡の正しい使い方を身に付けている。

全国平均 46.8% 正答率 39.4% 差 ▲7.4 ポイント

指導のポイント 虫眼鏡は、必ず一人に1個ずつ持たせ、正しい使い方が身に付いたかどうか、個々に確認するとよい。毎年、虫眼鏡で直接太陽を見て目を痛めたり、日光を集めて服などを焦がしたりする事故が発生している。正しい使い方と、安全への意識を身に付けさせたい。手で持てる物を観察するときは、虫眼鏡は目に近づけて持ち、見る物を動かし、手で持てない物を観察するときは、虫眼鏡を動かして、はっきり見るところで止めて観察する。このことを繰り返し指導することが大切である。

物の重さ

大問12(1)

<ねらい> 体重計の上で姿勢を変えても、重さは変わらないことを指摘できる。

全国平均 81.1% 正答率 76.4% 差 ▲4.7 ポイント

指導のポイント 「置き方を変えても形を変えても、物の重さは変わらない」ことを、実験により確認させる必要がある。例えば、粘土の置き方や形を変えて重さを量る実験のほか、体重計に乗り、姿勢を変えて量ったり、物の持ち方を変えて量ったりする実験を通して実感させるとよい。また、実験の前には、結果を予想させる時間を十分に確保することが大切である。「全体の量を増やしたり減らしたりしなければ、物の重さは変わらない」ことに気付かせたい。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

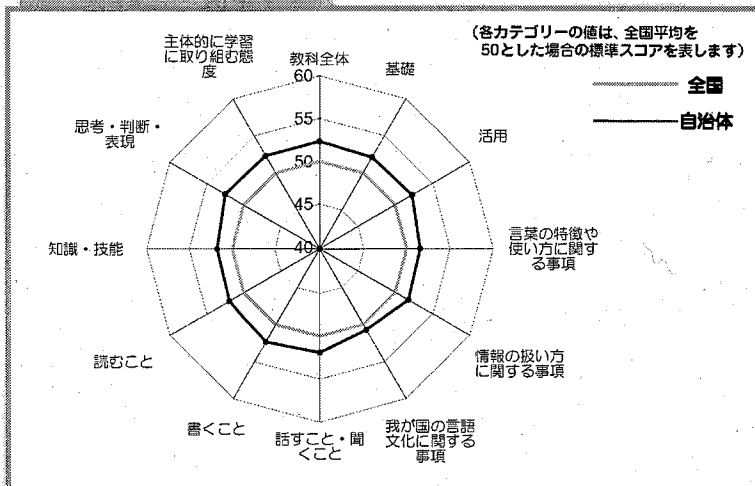
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	
教科全体		68.4	73.4	★
基礎		74.0	78.3	★
活用		55.9	62.2	★
領域別	言葉の特徴や使い方に關する事項	71.7	75.4	★
	情報の扱い方に關する事項	44.1	50.9	★
	我が国の言語文化に關する事項	86.9	89.4	★
	話すこと・聞くこと	57.0	62.3	★
	書くこと	63.7	73.2	★
観点別	読むこと	73.4	77.8	★
	知識・技能	68.6	72.7	★
	思考・判断・表現	65.3	71.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.3	64.3	★

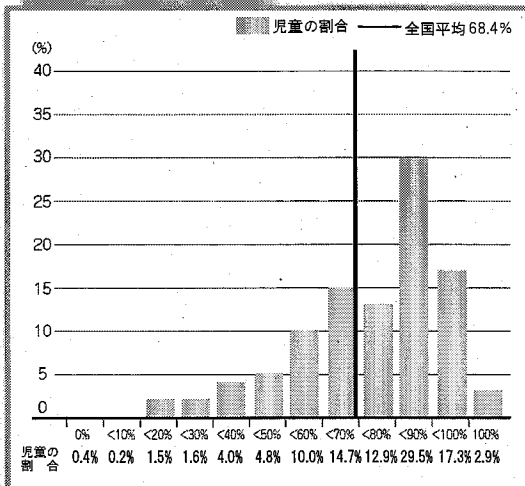
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が73.4%
- で、全国平均正答率を5.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が64.3%
- で、全国平均正答率を8.0ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を読む

大問2(1)③

<ねらい> 第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。

全国平均 88.8% 正答率 89.4% 差 0.6 割

指導のポイント 読み方が難しい漢字については、年間を通して意識して書かせるように指導することが大切である。また、分からない漢字があれば、その都度辞書などで確認させ、正しい漢字の知識を身に付けさせたい。その際、その漢字の読みのうち、どれが音読みでどれが訓読みかまで一緒に確認させることで、体系的な理解を促すとよい。

話し合いの内ようを聞き取る

大問1(3)

<ねらい> 意見の共通点に着目して、考えをまとめている。

全国平均 32.1% 正答率 34.3% 差 2.2 割

指導のポイント 本問では、まず、「意見」としてのテキストから、二人の話し手の考えの共通点を押さえることが求められていることを理解する。その上で、その共通点を、条件に合うように整理して書かなくてはならない。まずは、どんな問われ方であっても対応できるように、聞く力そのものを高めていく必要がある。そのためには、単にメモを取らせるだけでなく、どのような点にポイントを置いてメモしていくのかということ、児童にしっかりと理解させていくことが大切である。

小5 算数

「思考・判断・表現」が良好である

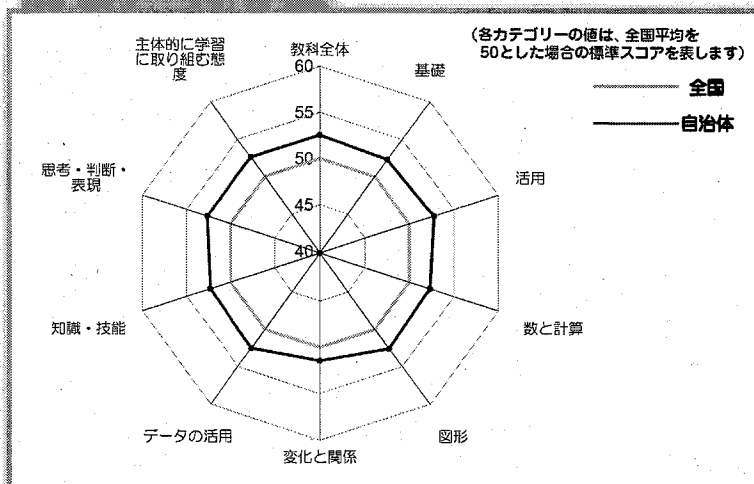
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		72.0	77.4	★
基礎		75.9	80.6	★
活用		60.2	67.7	★
領域別	数と計算	74.8	79.7	★
	図形	69.0	75.2	★
	変化と関係	76.3	80.3	★
	データの活用	62.1	70.0	★
	知識・技能	76.1	80.9	★
観点別	思考・判断・表現	54.9	62.8	★
	主体的に学習に取り組む態度	66.8	74.4	★

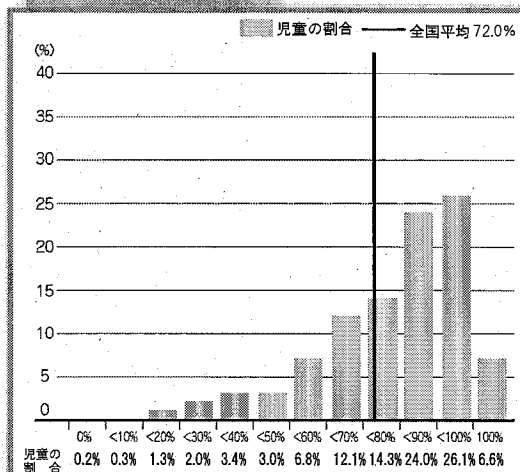
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が77.4%
- で、全国平均正答率を5.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が62.8%で、全国平均正答率を7.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

変わり方調べ

大問18(1)

<ねらい> 伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる。

全国平均 88.8% 正答率 89.4% 差 0.6 割

指導のポイント 変わり方調べでは、具体的な事象から変化の様子を表に表す。次に、表から変化のきまりを見つける。変化のきまりは、表を横に見るときと縦に見るときがあり、表を縦に見て見つけたきまりは、□や○を使って一般化できるよさがあることを理解させたい。きまりを一般化すると、一方の数が決まれば、計算してもう一方の数を導き出すことができる。そのよさが分かるように指導することも大切である。

億と兆・がい数の表し方

大問5(1)

<ねらい> 千の位までの概数の表し方を理解している。

全国平均 75.0% 正答率 76.3% 差 1.3 割

指導のポイント 本問では、どの位を処理したらよいか判断できず、つまずく児童もいる。34529を四捨五入して35000の概数にするとき、次の3種類の言い方がある。①上から2けたの概数にする、②百の位を四捨五入する、③四捨五入して千の位までの概数にする。いずれの場合も、百の位を処理することになると判断できることが大切である。

小5 理科

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

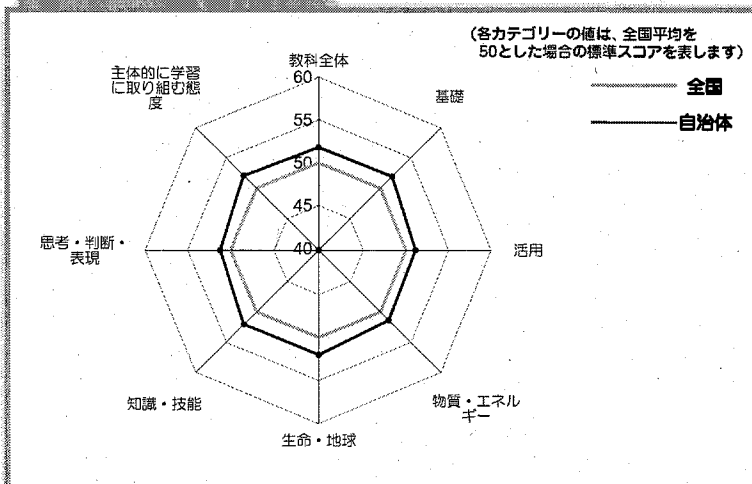
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		67.2	70.7	★
基礎		67.3	71.0	★
活用		67.0	69.8	★
領域別	物質・エネルギー	65.5	68.5	★
	生命・地球	68.9	72.8	★
観点別	知識・技能	71.3	75.3	★
	思考・判断・表現	62.4	65.2	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	58.8	★

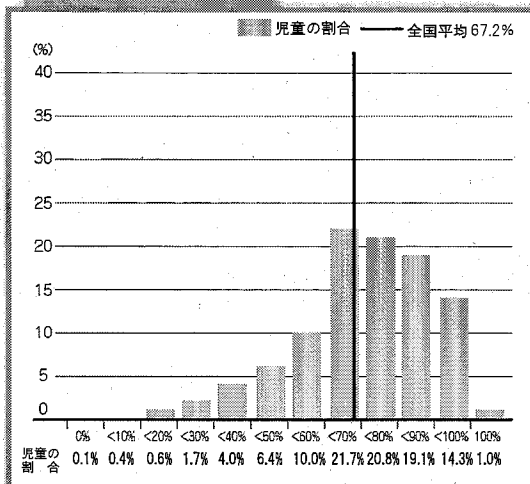
分析 コメント

- 小5理科は、教科全体の正答率が70.7%
- で、全国平均正答率を3.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が58.8%
- で、全国平均正答率を6.0ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

物のあたたまり方

大問11(2)

<ねらい> 金属のあたたまり方を理解し、最もはやくあたたまる金属の棒を指摘できる。

全国平均 58.6% 正答率 55.7% 差 ▲2.9 ポイント

指導のポイント 金属は熱せられた部分から順にあたまることを、観察・実験を通して捉えさせることが大切である。金属のあたたまり方については、水のあたたまり方と比較して理解させることも有効である。立てて置いた金属棒の真ん中あたりを熱した場合、上の方と下の方は同じくらいの速さであたまる。この点について、水を入れた試験管の真ん中あたりを熱したときの、上下のあたたまり方との違いを確認させるとよい。

月と星

大問6(3)

<ねらい> 1時間後の半月がどの向きに動いているかを推測できる。

全国平均 60.0% 正答率 58.4% 差 ▲1.6 ポイント

指導のポイント 月の形や動きは、写真やコンピュータソフトなどを活用し、視覚的に経時変化を理解させることが大切である。また、家庭学習として実際に月の形や動きを観察させ、その記録を基に、授業中に話し合いの機会を設けるとよい。話し合いの中では、「月には三日月、半月、満月などの形があること」「どの形の月も太陽と同じように、東の方角から、南を通して西の方角へ動くように見えること」を確認させる必要がある。

小6 国語

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

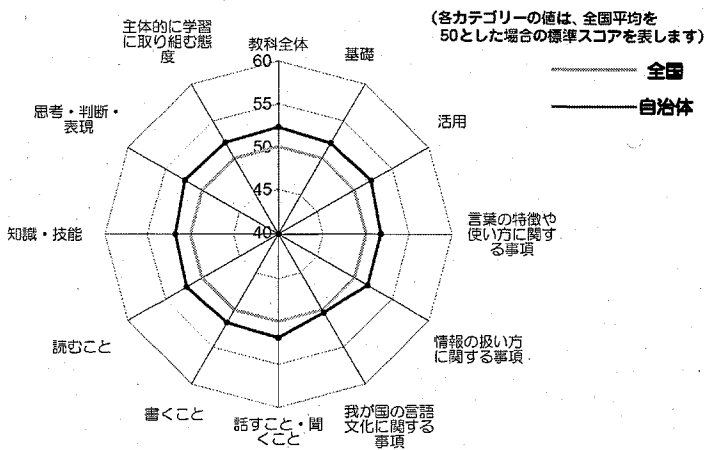
正答率一覧

(単位%)	★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体	73.1	77.6		★
基礎	77.3	81.3		★
活用	63.6	69.2		★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.3	79.1	★
	情報の扱い方に関する事項	76.8	84.3	★
	我が国の言語文化に関する事項	61.7	63.6	★
	話すこと・聞くこと	81.3	86.0	★
	書くこと	68.1	72.9	★
	読むこと	71.9	77.2	★
観点別	知識・技能	74.3	78.3	★
	思考・判断・表現	72.2	77.2	★
	主体的に学習に取り組む態度	70.2	76.1	★

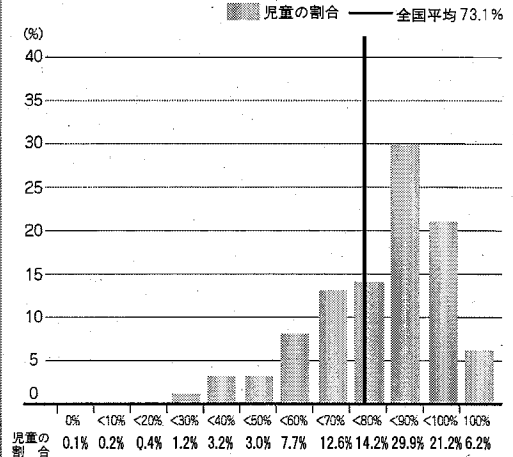
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が77.6%
- で、全国平均正答率を4.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が76.1%
- で、全国平均正答率を5.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 66.6% 正答率 66.8% 差 0.2 割

指導のポイント 「現す」と「表す」の意味や使い方の違いについて理解していない児童が多いと思われる。こうした訓練が同じ漢字を区別する際には、音読みの熟語を作ってみると効果的である。「現す」なら「出現」「実現」「再現」。「表す」なら「発表」「表示」「表明」。そうして比較してみると、漢字の意味や使い方の違いが分かってくる。本問の場合は、「出現」という熟語で置き換えられることが、どちらの漢字が適切かを判断する際の参考になる。

物語の内容を読み取る

大問4(2)

<ねらい> 登場人物の行動について、描写を基に捉えている。

全国平均 94.8% 正答率 96.3% 差 1.5 割

指導のポイント 文学的な文章の読み取りの問題では、児童はどうしても文章の特定の部分だけに注目してしまい、場面の様子や登場人物の人間関係など、文章全体の流れをしっかりと理解しないまま解こうとする傾向がある。まずは、文章全体としてどのような話なのかを理解させ、その上で細部について考えるような読み方を身に付けさせる必要がある。授業においては、文章の全体と細部の関係を意識して指導することが大切である。

小6 算数

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

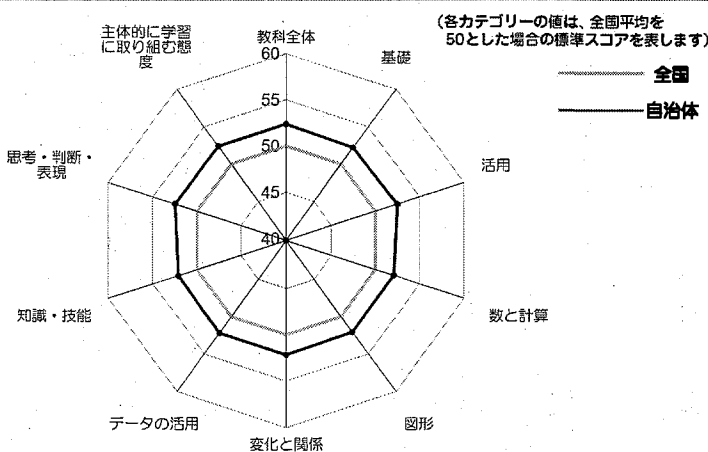
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		71.4	76.2	★										
基礎		76.1	80.6	★										
活用		50.9	57.2	★										
領域別	数と計算	76.0	80.5	★										
	図形	74.8	79.2	★										
	変化と関係	58.6	63.9	★										
	データの活用	58.2	66.8	★										
	知識・技能	77.0	81.5	★										
観点別	思考・判断・表現	53.8	59.8	★										
	主体的に学習に取り組む態度	55.1	61.4	★										

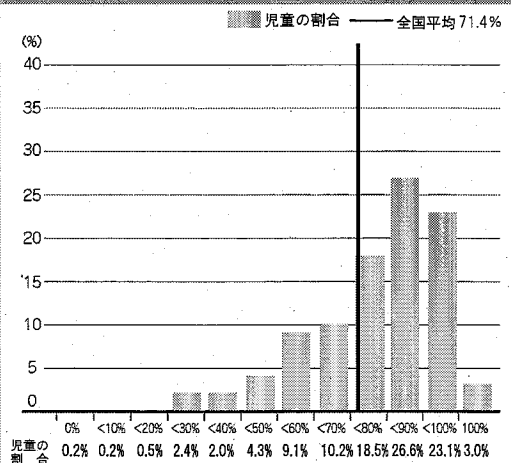
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が76.2%
- で、全国平均正答率を4.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が61.4%
- で、全国平均正答率を6.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

比例・単位量あたりの大きさ

大問15

<ねらい> 伴って変わる二つの量の関係を表した表を見て、比例関係にあるものを選ぶことができる。

全国平均 87.9% 正答率 87.5% 差 ▲0.4 ポイント

指導のポイント 比例関係にある2量には、「一方が2倍、3倍…になるとき、もう一方も2倍、3倍…になる」という関係がある。これを基に考えると、「たての長さが3cmの長方形の横の長さ」と面積が比例関係にあることが分かる。なお、「妹と兄の年れい」は差が一定の関係、「立方体の1辺の長さ」と体積は(1辺の長さ)×(1辺の長さ)×(1辺の長さ)=(体積)の関係、「読んだページ数と残りのページ数」は(読んだページ数)+(残りのページ数)=(総ページ数)の関係である。身の回りで比例関係が成り立つ事象を探して、表現し合う活動に取り組ませたい。

多角形と円・合同

大問11

<ねらい> 合同な図形を選ぶことができる。

全国平均 92.1% 正答率 92.1% 差 0.0 ポイント

指導のポイント 2つの図形が形も大きさも同じでぴったり重なるとき、この2つの図形の関係は合同であることを確認する。児童は、合同な図形の向きは常に同じであると考えがちであり、授業でも同じ向きの図形を示すことが多い。そのため、一方の図形が回転していたり、裏返っていたりすると、辺や頂点の対応関係を見いだすことが難しく感じられる。合同な2つの図形を用意し、実際の操作を通して、図形の向きや表裏に関係なく合同であることを理解させたい。その際、表と裏の色が違う図形を用意すると、裏返っていることが分かりやすくなる。

小6 理科

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

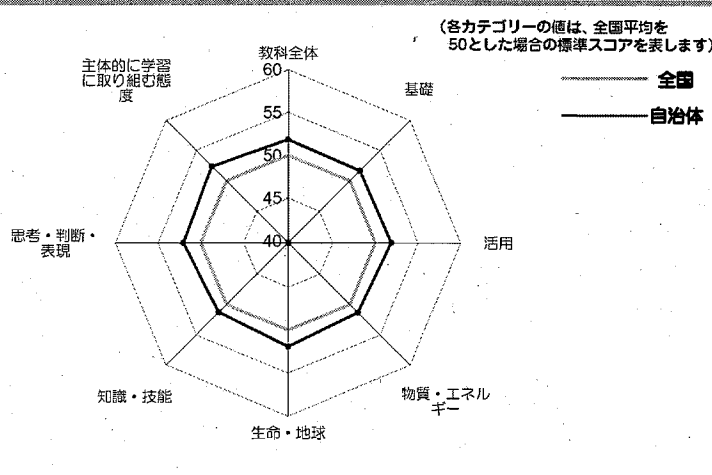
正答率一覧

(単位%) ★-全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体	72.9	76.4		★
基礎	76.3	79.4		★
活用	64.1	68.6		★
領域別	物質・エネルギー	63.0	66.3	★
	生命・地球	76.7	80.2	★
観点別	知識・技能	75.3	77.7	★
	思考・判断・表現	71.0	75.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	71.3	77.6	★

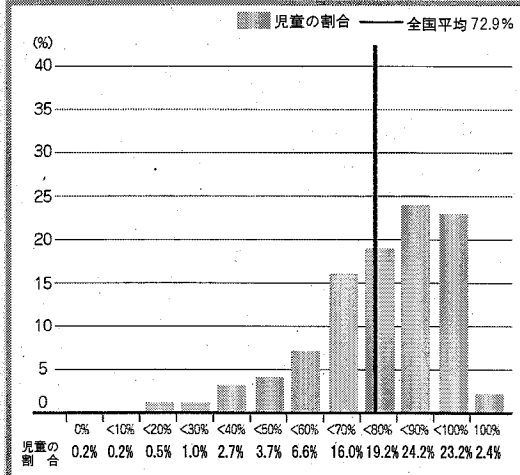
分析 コメント

- 小6理科は、教科全体の正答率が76.4%
- で、全国平均正答率を3.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が77.6%
- で、全国平均正答率を6.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

人のたんじょう

大問5(1)

<ねらい> 子宮の中の子どもと胎盤をつなぐ部分を、「へそのお」ということを理解している。

全国平均 87.4% 正答率 84.3% 差 ▲3.1 ポイント

指導のポイント 人の誕生については、教科書のイラストなどを活用したり、黒板に図示したりしながら、①子どものへその緒は、母親の子宮の壁にある胎盤とつながっていること、②子どもは、へその緒を通して、母親から養分などを取り入れ、いらなくなったものを返していること、③羊水は、子宮の中にいる子どもを囲んでいて、外部からの力を和らげ、子どもを守る働きをしていることを、科学的な言葉で説明できるようにさせたい。

物のとけ方

大問8(3)

<ねらい> 水の温度を下げたとき、ミョウバンの溶解度が大きく下がり、溶け残りが生じることを推測できる。

全国平均 38.5% 正答率 36.9% 差 ▲1.6 ポイント

指導のポイント 食塩とミョウバンを水に溶かし、水の温度や量による溶け方の違いを調べる実験により、両者の水に溶ける量の違いを比較させる。常温の水に溶ける食塩の量と同じ量のミョウバンを容器に入れ、溶け残る様子を観察させたり、水を入れた1mの透明な塩化ビニル管に、食塩とミョウバンを2～3粒ずつ落とすと、食塩は途中で溶けてなくなるが、ミョウバンは下まで溶けずに落ちる様子を観察させたりして、溶ける量の違いなどを視覚的に認識させたい。また、温度の高い水に物を溶かし、その水溶液を冷やすと、溶けた物が出てくることも捉えさせたい。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

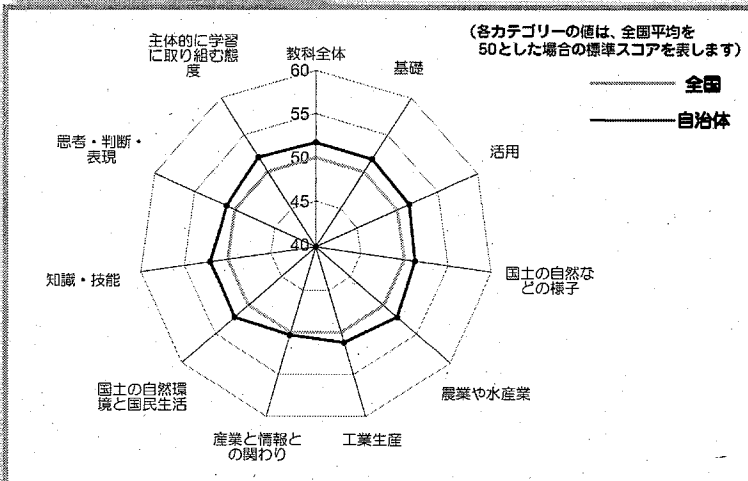
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)	
教科全体		69.9	73.5	★	
基礎		71.7	75.2	★	
活用		64.3	68.2	★	
領域別	国土の自然などの様子	63.4	66.8	★	
	農業や水産業	67.9	73.3	★	
	工業生産	69.7	72.5	★	
	産業と情報との関わり	85.0	85.7	★	
	国土の自然環境と国民生活	68.7	73.8	★	
観点別	知識・技能	70.8	75.2	★	
	思考・判断・表現	68.3	70.6	★	
	主体的に学習に取り組む態度	66.0	71.3	★	

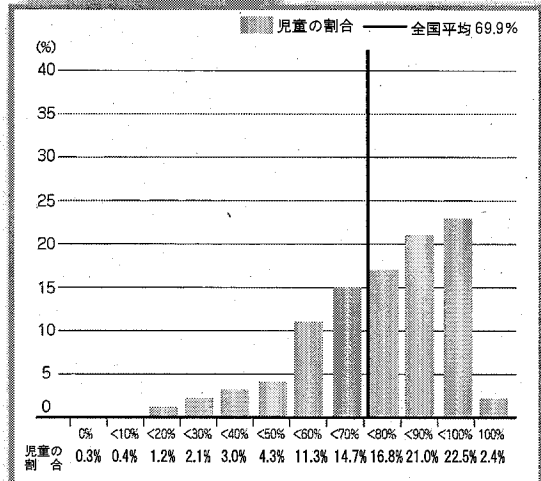
分析 コメント

- 小6社会は、教科全体の正答率が73.5%
- で、全国平均正答率を3.6ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が71.3%
- で、全国平均正答率を5.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

日本の国土と人々のくらし

大問1(2)②

<ねらい> 日本海側の気候についての理解をもとに、雨温図を判断している。

全国平均 52.1% 正答率 46.2% 差 ▲5.9 ポイント

指導のポイント まず、雨温図について、月ごとの気温(°C)を折れ線グラフ、降水量(mm)を棒グラフで表し、グラフの左に降水量の目盛り、右に気温の目盛りがあるという特徴を確認させる。気温の目盛りの一番下が0ではないことに注意させたい。次に、月別平均気温と降水量の変化に着目させ、季節のサイクルを捉えさせる。いくつかの都市の雨温図を比べてみることで、気候の特徴を見いだすことができる。日本海側では、降水量の変化に着目させ、なぜ冬に降水量が多いのか、その背景に気付かせることが重要である。

自動車をつくる工業

大問4(1)

<ねらい> 自動車の製作工程におけるプレスを理解している。

全国平均 53.0% 正答率 48.9% 差 ▲4.1 ポイント

指導のポイント 自動車工場の製作工程については、プレス→溶接→塗装→組み立てという流れを、用語も含めてきちんと押さえるように指導する必要がある。近くに自動車工場がある環境があれば、実際に工場見学に行かせ、それぞれの工程でどのような作業が行われているのかを児童一人一人に確かめさせて、見学のまとめを書かせるとよい。

小6 英語A

「思考・判断・表現」が良好である

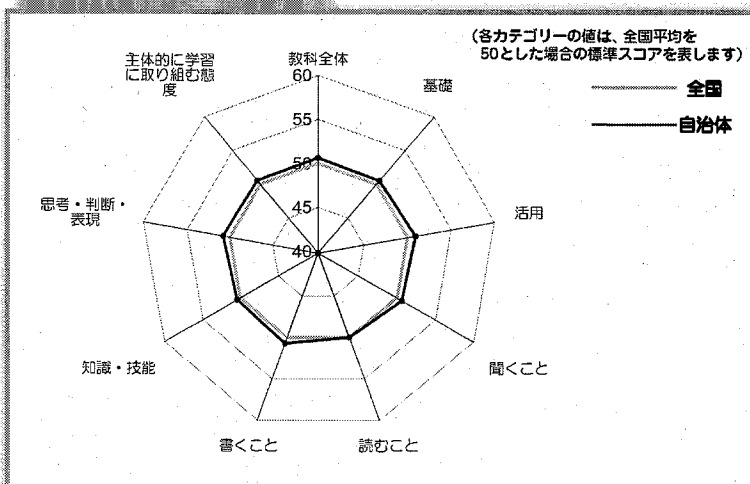
正答率一覧

(単位%)	★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		87.2	88.1	★
基礎		88.0	88.7	★
活用		84.0	85.5	★
領域別	聞くこと	88.9	89.6	★
	読むこと	86.4	86.5	★
	書くこと	85.5	86.9	★
観点別	知識・技能	87.7	88.2	★
	思考・判断・表現	86.4	87.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	85.3	86.7	★

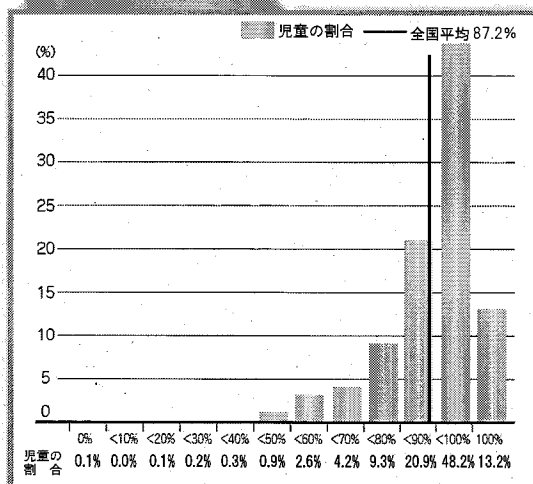
分析 コメント

- 小6英語Aは、教科全体の正答率が88.1%
- で、全国平均正答率を0.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が87.9%で、全国平均正答率を1.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

日常会話の理解(聞く)

大問5(3)

<ねらい> 第三者を紹介する場面で、具体的な情報を聞き取り、その内容を理解している。(大きさでできること)

全国平均 97.3% 正答率 95.9% 差 ▲1.4 ポイント

指導のポイント 第三者を紹介する場面では、誰が何を紹介しているのかを、まず理解する必要がある。本問の場合、ルーシーが家族の紹介をするという前提を、スクリプトを聞く前に熟知しておくことが大切である。This is～は、物を示す場合に使う文だと思い込んでいる教師や児童が多い。人物や動物を示す場合もあるということを、日頃の授業の中で、押さえさせたい。その上で、本問では大きさで動作の二つを聞き取ることが求められているので、メモを取ったり、○を付けたりしながら聞き取るように指導するとよい。

アルファベットの書き(聞く)

大問3(3)

<ねらい> 音声を聞き、活字体の小文字を正しく書いている。(r)

全国平均 76.8% 正答率 75.8% 差 ▲1.0 ポイント

指導のポイント アルファベットの聞き取りや書き取りを行う際に、児童は、発音と文字の形を連動させずに覚えている場合がある。授業で扱う際に、音だけでアルファベット順を覚えさせたり、フラッシュカードを見せて、そのアルファベットを答えさせたりする活動だけを行っている、上記のような状態になってしまう。アルファベットの歌を歌うときでも、必ず形を見せられるようにしておくことが大切である。また、アルファベット順に覚えさせるだけではなく、ランダムに出てきても、音と形が思い浮かぶ状態にまで習熟させるようにしたい。